

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	レクリエーションスポーツの普及事業										
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	スポーツ係	評価票作成者	スポーツ担当係長 伊藤孝士			
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」				③基本施策	生涯スポーツ・スポーツ振興	コード	4-2-1		
						④単位施策(中)	生涯スポーツの充実	コード	4-2-1-2		
	②項	生涯スポーツ・スポーツ文化				⑤単位施策(小)	レクリエーションスポーツの普及	コード	4-2-1-2-2		
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	豊明市在住・在勤の大人・子どもを対象とする		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		生涯スポーツとして誰もが気軽に取り組める、レクリエーションスポーツのを市民に広く普及させる。種目を増やすとともに場所や時間に配慮し、市民が参加しやすい環境を整備する。					
1-5 事務事業の内容	スポーツに寄与する団体としてレクリエーション協会及び体育指導委員会の活動を支援する。										

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	スポーツ推進委員会では毎月第3土曜日午前中にニュースポーツを楽しむ会を開催し、誰でも楽しめる軽スポーツの普及に努めた。	余暇を利用したスポーツに老若男女が参加し交流を楽しんでいる。	自分自身の生活における「時間のゆとりの有無」の調査(平成13年3月健康体力づくり事業財団の調査)によると男女別では、女性がゆとりがある結果に基づき女性が参加しやすいスポーツのニーズがある。		
平成19年度	スポーツ推進委員会が、ニュースポーツを楽しむ会、スポーツレクリエーションフェスティバル、自然歩道を歩く会、市民ウォーキング等のスポーツイベントを開催し、一人でも多くの市民が、気軽に参加できるよう努めた。	メタボリックシンドロームからくる生活習慣病などが懸念されている中、運動による肥満予防の観点からも気軽にできる運動が必要とされている。	”			
平成20年度	”	”	”			
平成21年度	”	”	”			
平成22年度	レクリエーションスポーツの種目を増やし(輪投げゴルフ)、市民の多くが興味を持って参加できるようにした。					
平成23年度	市民がより興味を持って参加できるように、活動内容を見直した。					
平成24年度	市民の方が参加できるようにイベント企画の際PRにも力を入れ、また、他の団体の協力も得ることができた。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	スポーツ推進委員が開催しているスポーツレクリエーション参加者数(人)	600(人)	660(人)	現在548人の参加者があり前期アップを1割アップ後期を2割アップを目標とした。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単)	548(人)	463(人)	462(人)	474(人)	444(人)	235(人)	376(人)			
	直接事業費 b(千円)	695	695	695	695	695	695	695			
	人件費 c(千円)	2,163	1,697	1,693	1,681	1,629	1,582	1,570			
	合計コスト d(b+c)(千円)	2,858	2,392	2,388	2,376	2,324	2,277	2,265			
単位コスト d/a(千円)	1人当たり 5	1人当たり 5.2	1人当たり 5.2	1人当たり 5.0	1人当たり 5.2	1人当たり 9.6	1人当たり 6.0	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 自然歩道参加者 春 76人 秋 79人 スポレク 夏 137人 冬 43人 市民ウォーキング 41人 計 376人
 自然歩道委託料 518千円 スポレク委託料 177千円 合計 695千円
 レクリエーション事業に係る人件費 5,978千円×7%×1人=418千円 3,000円×8時間×8日×6人=1,152千円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	548	463	462	474	444	235	376			
	後期目標値に対する達成度(%)	83.0	70.2	70.0	71.8	67.3	35.6	57.0			

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- ①必要性(必要な事務事業であるか)
 - ②公共性(公が実施する意味があるか)
 - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	労働時間の減少に伴い余暇時間が増加したためスポーツに参加する人々が増加する。	今後のレクリエーションスポーツを多くの市民が参加できる種目を加える。	参加者が増えるような運営方法、種目を検討する。
平成19年度	確実にスポーツに触れたいという人は増えているが、PR不足は否めない。1人でも多く参加が増えるようなPRをしていく必要がある。			事業自体は定着しつつあるが、参加者自体も固定化されつつある。
平成20年度	健康を維持する上で、適度な運動は必要であり、運動をする機会を作ることも必要であり、誰もが楽しみながらできるような軽スポーツを一つの取りかかりとして捉えてもらい、継続的に運動を続けてもらえるようにする。		参加者が徐々に減りつつある事業もあり、参加者が増えるような運営方法、種目を検討する。	PR不足の面もあり、参加者の増えるようにPRをする。
平成21年度	〃	〃	〃	参加者が増えるように、一層のPRをする。
平成22年度	健康を維持する上で、適度な運動は必要であり、運動をする機会を作ることも必要であり、スポーツをしたことのない人でも誰もが楽しみながらできる軽スポーツをきっかけとして、継続的に運動を続けてもらえるように、いろんな機会を捉えて軽スポーツを実践し、広報チラシ等により周知する。			
平成23年度	健康を維持する上で、適度な運動は必要であり、運動をする機会を作ることも必要であり、スポーツをしたことのない人でも誰もが楽しみながらできる軽スポーツをきっかけとして、継続的に運動を続けてもらえるように、いろんな機会を捉えて軽スポーツを実践し、広報チラシ等により周知する。(なお、22年度よりニューススポーツを楽しむ会を地域でより充実して行うためにスポーツ教室として行うことにした。)			
平成24年度	健康を維持する上で、適度な運動は必要であり、運動をする機会を作ることも必要である。スポーツをしたことのない人でも誰もが楽しみながらできるレクリエーションスポーツをきっかけとして、継続的に運動を続けてもらえるようにした。ホームページ、広報など活用しPRに努める。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	A	継続して事業を進めること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			